

第73回結核予防全国大会 おことば



令和4年3月8日（東京都）

本日、「第73回結核予防全国大会」が、「結核対策の今 — 新たなステージへ」をテーマに開催されております。

本大会は熊本県で開催する予定でしたが、感染状況をふまえ、本部のある東京からのオンライン開催となりました。

大会式典では、「第25回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰式がおこなわれます。長年にわたり結核対策に貢献してこられ表彰を受けられる皆さまに、心からお祝いを申し上げます。

結核対策は、今も大変重要な課題です。2020年の統計によりますと、日本では約12,000人が新たに結核を発症し、約1,900人が命を落としました。新規登録患者には高齢者が多く、20歳代では新規登録患者の7割以上が外国生まれです。また、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行による結核対策の遅れは、世界中で問題になっています。今後とも、国内の結核患者の早期発見や治療に力を入れるとともに、罹患率が高い国や地域に対して日本の経験を活かした協力をおこなうことが求められております。

本日は、午前中に全国支部長会議、午後には研鑽集會が開催されました。全国支部長会議では、「10年後の健診を展望する」というテーマで、これからの健診のあり方について、専門的な議論がおこなわれました。また、研鑽集會では、「低まん延 新たな目標に向かって～2025年罹患率7を目指して」というテーマで、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響、保健所の対策、国際協力、婦人会活動などのお話がありました。感染症拡大により難しい対応が求められる中、医療や保健に携わる人々の強い使命感と努力を、大変心強く思います。

結核予防に関わる皆さまが、これからもご自身の健康に留意されながらご活躍されるとともに、困難な状況が収束し、また皆さまとお会いできる日が早く訪れることを願い、式典に寄せる言葉といたします。